

アクセサリーにおけるフォルムの効果

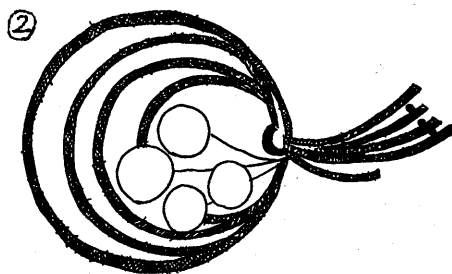
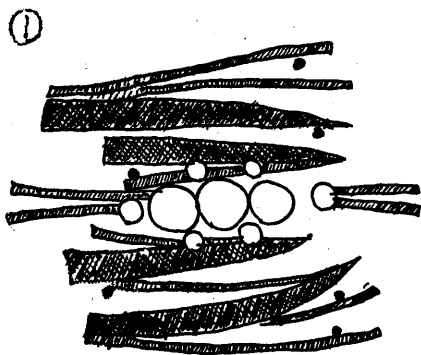
松 本 憲 子

エジプトやエトルリア人の作品を始めとして何千年も昔から、現代に至るまでの数多くの作品の中には、アクセサリーとしてより芸術作品としての美しさを鑑賞されるものがある。そうしたアクセサリーの美しさには、宝石や貴金属を使った伝統的な技法の巧みさが主体となっている。それと対象的に最近のブローチやペンダントなどは、いっそう自由なデザインが行なわれ、その形もかなり大きいものになりつつある。又抽象的な形状を組み立て、動く構造のものや精密な鑄造技術による金属の材質を表現してみせるものが現われている。アクセサリーと制作(大西甚平著)の中で、アクセサリーは配分の効果によって服装と人体とを合せた全体を引き立たせるポイントとなると書かれているが、このポイントとなるフォルムを調べることが、アクセサリーの効果を知ることになると思う。又、昔はアクセサリーは単に服装を引き立たせるための付属品としか考えられなかったようであるが、現在ではアクセサリーそのものの持つ効果が重要と考えられ、逆にアクセサリーを引き立たせるための服装を考えるべきだという人もある。このようにアクセサリー自身の持つ価値が大きくなるに従い、そのデザインにも種々の変化が現われてきた。こうしたデザインを分析してみると、この研究の本体になると考えた。そこでこれを調べるのに、装身具の中で服との関係、又構造の良くわかるものをもと考えた結果、銀線と真珠を用いたブローチを選んだ。その内容は次のような効果を持っている。真珠は生成の課程によると思われるが一般の宝石とは違った暖い感触の感じられる光を帯びている。その奥深い光沢やその円満な形状に存

材質感が、何個か集って、ゴツゴツしない暖かな量感を作り出す効果を持っている。銀線の構成においては、銀線が優雅な材質感を表現することはどの造形にも考えられることであるが、このブローチの場合、鋭く冷たい材質感の表現が多いのは、服の上でポイントとなるために効果があるからであろう。更に銀線が直線曲線を用いた構成により、ブローチに動勢を作っている。そうした真珠の持つ奥ゆかしい量感との組み合わせで作られたフォルムには、重厚な内容を生み出している。銀線の構成は自然物の形状や形態を単純にシンボル化し服の上ではっきり認めやすい効果のものと、それらにとらわれず、直線曲線の自由な構成により独特の効果を作り出している二つの系統がある。後者のデザインは、A) 銀線の構造が一方向への動きを効果的にしているもの B) 用いられる銀線の太さや数、並べ方から材質感をみせるねらいのもの C) 曲線を用いた構造がブローチ自身の厚みを作り量感を表現しようとするもの、の三つに分類して調べた。

以上調べた構造から服装に働く効果は次のようなことが考えられた。〔線体のカーブ〕銀線の配列はなるべく平面的の方が良いことはいうまでもなく、配列の間隔についてもブローチの中心部で2mm以内に接近した線が5本位になると、動的な効果より、銀線の量感が強く視覚化されるようになる。〔量感〕銀線の構成はその線の包む空間の大きさが量感を決定するが、あまり間隔が離れていては、空間の形がはっきりととれられず、かえって量感は減少する。

①図の構成は平面的な配列であり、各形状の間隔が離れすぎることがなく、充分量感を感じさ



側面図



せている。②図のように立体的な構成であれば構成が単的でも服の上で、量感を発揮できる。銀線の量感を表現するには、幾通りかの形式があると思われる。〔銀線の材質表現〕これに

おいては、丸と角を使うと動的な形状の中に、材質の効果が視せられる。以上がこの研究の入口に過ぎないが、今後もいろいろ調べてみようと思っている。